

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

株式会社フィールズ

②施設・事業所情報

名称：グローバルキッズ藤が丘園	種別：認可保育園
代表者氏名：羽牟 享子	定員（利用人数）： 定員 60名（利用人数59名）
所在地：〒227-0043 横浜市青葉区藤が丘1-16-20 第二東急藤が丘ビル1F	
TEL：045-974-0404	
ホームページ：https://www.gkids.co.jp/facilities/nursery_030.html	
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2012年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：株式会社グローバルキッズ	
職員数	常勤職員： 16名 非常勤職員： 5名
専門職員	（専門職の名称） 名 保育補助2名
	施設長 1名 栄養士2名
	保育士14名 調理師2名
施設・設備の概要	（居室数）保育室：6室 遊戯室 ・調理室・事務室・医務室・更衣室 （設備等）トイレ・シャワー

③理念・基本方針

<p>企業理念： 子供たちの未来のために</p> <p>保育理念： 豊かに「生きる力」を育てる</p> <p>保育目標： <ul style="list-style-type: none"> ・思いやりのある子ども ・自分で考える子ども ・元気でたくましい子ども ・明るくのびのびした子ども </p> <p>保育方針： <ul style="list-style-type: none"> ・子どもを中心に据え、家庭や地域との信頼関係を築き、環境を通して、人や物との関わりを大切にする ・子どもの安全と安心を基本として、自ら伸びる力を大切にし、成長と個性に応じた 多様性のある保育をする ・子どもの目線で、豊かな愛情を持って、一人ひとりの気持ちをしっかり受け止め、その主体的な活動を育む </p>

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・自然の中でのびのびと遊び、遊びの中から学びを深め、豊かな感性と健康な身体作りをする
- ・自ら遊びを選択し、遊びこむ力や探求心を広げ、最後までやり遂げる経験を重ねる
- ・保育者との信頼関係を重ねながら、友だちとの関わりを豊かに展開していく
- ・地域高齢者・近隣保育所や小学校、消防署等との交流
- ・地域子育て支援にて園庭開放・交流保育・育児相談・育児講座等を実施して、子育て家庭との交流と支援

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和2年7月13日（契約日）～ 令和3年4月2日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	3回（平成29年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

1) コロナ禍での保育について工夫を凝らしています

今年度はコロナ禍により、例年実施していた行事や保育活動ができませんでしたが、制約のある中で、新しい保育の考え・工夫で、子どもたちの成長に繋げています。子どもたちの室内遊びが単調にならないように、職員がテレワークを利用して年齢に応じた指先遊びを考案したり、参観ができない保護者に向けて、保育活動の様子を写真等で伝える”ドキュメント”作成に力を入れたり、夏のプール遊びや5歳児のお泊り保育の代わりに、水を使った遊びやお出かけを工夫して、子どもたちがコロナ禍の制限をストレスに感じずに楽しい思い出を作ることができる内容を考えています。保護者アンケートからも総合満足度で90.5%が満足との高評価を得ています。

2) 理念などの周知を基に職員の育成・保育の向上に取り組んでいます

本社は「2030トリプラトラスト」を策定し自分を大切に、「人を大切に」のビジョンを掲げています。職員はクレド（子どもたちの未来のためにの理念を紡いだ文章）を携帯しています。園長は、園の1～3年間の到達目標・ありたい姿、実現のためにやる事を作成しています。

職員は成長支援制度で一人ひとりが自分のスキル、役割、姿勢（S T A T：安心安全・チームワーク・やってみよう・感謝）から目標を設定し、自己評価・上司評価を受け、個々の成長の支援をしています。コロナ禍でも職員アプリの配信で「GK保育」などいつでも受講可能な研修や情報交換が行われています。

3) 園長は働きやすい職場づくりと職員育成に取り組んでいます

個別に年次休暇計画を作成し、休暇の取得状況や残業等を把握し、時間短縮勤務シフトなどワークライフバランスに配慮されています。年1回「輝き度調査」を実施し精神面、仕事量、適正などをチェックし、職員の要望や希望を聞き取っています。園長は随時、個人面談を行い日々の業務の課題や健康、相談など、「コミュニケーションノート」に記録し、働きやすい職場づくり、職員育成に取り組んでいます。

◇改善を求められる点

1)計画の見直しによる計画修正と職員周知

地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析しています。今年度初めて園の1～3年の目標達成を作成し、成果・反省欄を設け、年度末に見直しの予定です。保育内容は年度、月案、週案の保育計画に反映し、自己評価欄を設けています。

保育計画、事業計画、研修計画などさまざまな計画に対する評価、見直しは行われていますが、今後さらに分析・検討、課題の抽出、改善計画などに活用できるよう工夫を重ねていくことが、課題と考えています。課題に加え、各種マニュアル類を定期的に見直し、常に活用できるよう勉強会の開催などに取り組まれることが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

保育園が開園されて九年の月日が経ちます。地域の方々に支えられ、そして保護者の方々と小さな出来事を共感できる関係が構築されてきました。

第三者評価受審は今回で三回目となり、更なる保育の質の向上と捉え全職員で取り組んできました。園運営を様々な角度から検証していただく中で、保育園の役割が明確になり社会的責任の重さや多様なニーズに対応できる保育園であることが必要だと感じました。

利用者アンケートでは保護者の皆様から概ねご満足をいただいております。評価していただいている点は今後さらに推進し、課題につきましては日々の保育で話し合いをもち、この気づきを共通理解しながら改善に向けて職員全体で取り組み、より良い施設をめざして努力していきたいと考えています。

保護者の皆様には、調査アンケートへのご協力いただきまして、心から感謝申し上げます。皆様から頂いたご意見は、今後の園運営に活かしてまいります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり